厚沢部町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

資料　２

事業実施の目的・必要性

厚沢部町においては、広域幹線として函館バスを実施主体とする函館・江差間を運行する路線バスが主な公共交通機関となっている。
また、支線としては、有限会社マルジュウ高田を実施主体とする江差高校通学向け乗合バスを運行している。主な利用者は江差高校へ通学する高校生であること、また、買い物、通院等の日常生活を目的とする移動手段の役割を担っており、地域拠点へ接続することで広域への移動も可能とするなど、広域幹線を補完する欠かせない路線になっている。
一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく取組を進めているところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

〇江差高校通学向け乗合バスの利用者数
【目標値】函館・江差線沿線外から通学する江差高校生の6割（22人）
〇江差高校通学向け乗合バスの収支率
【目標値】運行経費に対する運賃収入の割合20%
〇江差高校通学向け乗合バスの公的資金投入額
【目標額】9,541千円

令和６年度事業概要

〇江差高校通学向け乗合バス
運行系統名 ：①南線、②北線、③南北線
運行区間 ：①館町～滝野～江差高校、②相生～赤沼町～江差高校、
③相生～館町～赤沼町～江差高校
運行回数 ：①300回、②300回、③55回
運賃 ：別紙運賃表のとおり

地域公共交通の現況

・函館バス株式会社（函館・江差線、木間内線、館線、稲見線）
・有限会社マルジュウ高田（江差高校通学向け乗合バス）

協議会開催状況

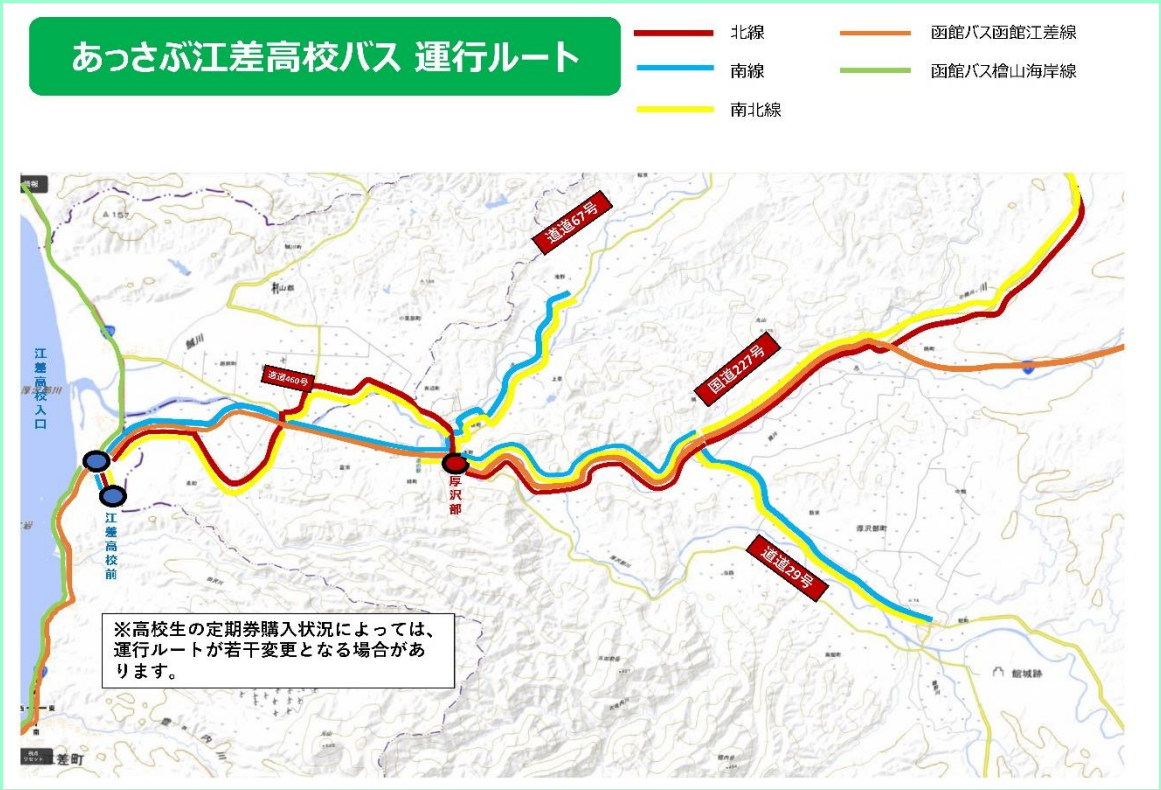
〇令和5年10月10日（令和5年度第1回）
・委員の変更・交通計画について・江差高校通学向け乗合バス運行事業者の選定・今後の進め方について
〇令和5年12月4日（令和5年度第2回）
・函館バスとの「館・稲見線」に係る協議状況・江差高校通学向け乗合バスの運行計画の考え方
〇令和6年1月18日（令和5年度第3回）
・江差高校通学向け乗合バスの運行計画承認、江差高校通学向け乗合バスの愛称について
〇令和6年3月6日（令和5年度第4回書面）
・交通空白地有償運送の承認について・交通計画の一部改正について
〇令和6年6月7日（令和6年度第1回）
・委員の変更について・あっさぶ江差高校バスの運行計画の承認について・地域公共交通計画認定申請（フィーダー補助）について・あっさぶ江差高校バスの利用状況について・交通空白地有償運送事業の利用状況について
〇令和6年9月24日（令和6年度第2回）
・厚沢部町地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正について・厚沢部町地域公共交通計画の施策の実施について

令和６年度事業の実施状況

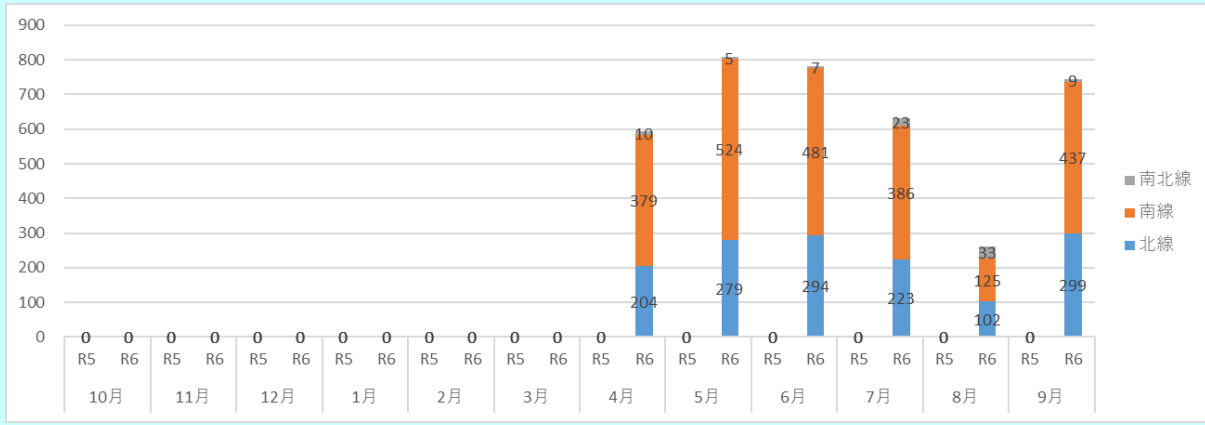
１）プロセス、創意工夫

・令和6年4月から函館バスの館線・稲見線・木間内線が廃止になることから、主な利用者である江差高校生通学向け乗合バスを4月より開始。
・区域運行とすることで江差高校生以外の利用者についても乗車することを可能とした。
・運行時間については、江差高校へ通学する生徒の保護者へ説明会（1回）及びアンケート調査（2回）を実施し、利用者のニーズに沿った運行時間を設定した。
・土曜日、長期休業日についても、部活動などの登校に対応するべく、同じく運行時間のアンケート調査を実施し、利用者のニーズに沿った運行時間を設定した。

２）運行系統



３）利用実績

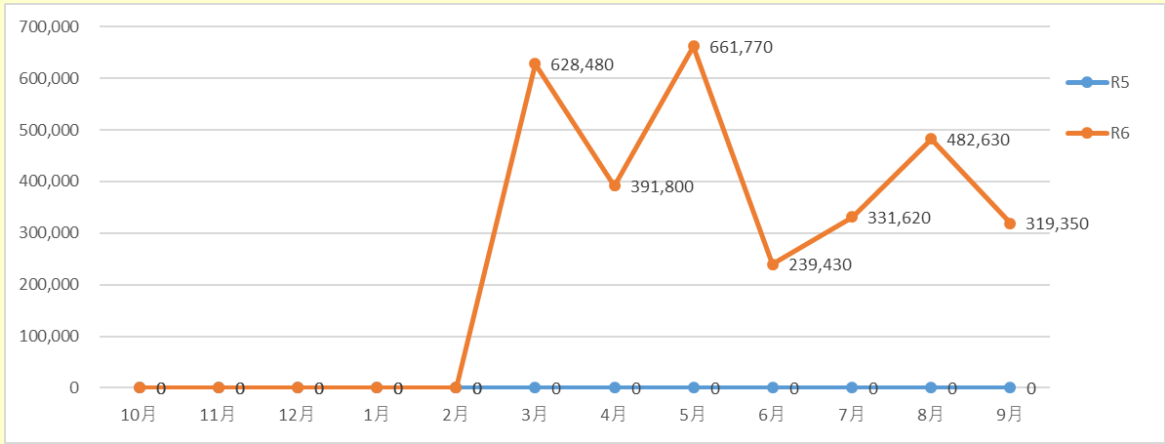


令和5年度実績：0人
令和6年度実績：3,820人

	10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		計	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6
北線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	204	0	279	0	294	0	223	0	102	0	299	0	1,401
南線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	379	0	524	0	481	0	386	0	125	0	437	0	2,332
南北線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	5	0	7	0	23	0	33	0	9	0	87
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	593	0	808	0	782	0	632	0	260	0	745	0	3,820

単位：人

４）収入実績



令和5年度実績：0円
令和6年度実績：3,055,080円

5）事業実施の適切性

A 計画通り事業は適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

C 南北線の利用が想定を下回ったこと等により、江差高校生の利用者の目標である生徒数の6割22人（往復1人換算のため、片道の場合44人）に対し、38.8人/日（片道換算）であった。

また、江差高校通学向け乗合バスの収支率は、目標20%に対し、30.3%であった。

また、江差高校通学向け乗合バスの公的資金投入額は、計画時は土曜日及び長期休業日の運行を含んでいなかったため、目標9,541千円に対し、12,373千円であった。

7）事業の今後の改善点

〇江差高校通学バス定期券については、事業開始年度の新1年生においては購入者率100%であり、バスの利用は向上している。一方で土曜日、長期休業日は部活動の時間帯がバラバラであること、また、バスを1台体制の運行ルートとしていることで、平日に比べ乗車時間が長くなることから利用者が少ない状況である。来年4月に向けて高校生のアンケート調査を実施し、運行時間の見直しを行う。

8）地方運輸局等における二次評価結果（案）

運輸局記載欄